



@幸せな贈り物

ビクトリー サイン Victory Sign

71%をさらに飛ぶようにする力

雁が移動するときは、なぜ「V字隊形」で飛行するのかご存知でしょうか。

イ・オリオン氏の〈デジログ〉という本で発見したその理由が心に残りました。

冬になれば、雁はV字隊形を描きながら南に飛んで行くのですが、その理由は、前で飛ぶ鳥が翼を動かすと、後から付いてくる鳥のための上昇気流が作られるためだということです。

それで全体の雁をリードする一羽が飛んで行くことより、71パーセントさらに遠く飛べるようになるということです。その姿はビクトリーサイン Victory sign と呼ばれています。

その程度でなく、雁はV字隊形を成しながら飛んで行って、一番前の雁が疲れれば後ろに退いて、すぐ後に従っていた雁が先に立ちながら、チーム員たちが回りながらチーム長の役割を遂行すると言われています。そのようにするなかで、雁の隊列では先に立とうと戦うこともなくて、一番最後だからといって劣等感を持つこともないということです。

また、雁が病気になったり、ケガをして、隊列から落伍すれば、二羽の他の雁がその雁と一緒に隊列から落ちて、その雁が地上に降りて行くときまで手助けして保護するということです。一緒に行った二羽の雁は、落伍した雁がまた飛ぶことができる時まで、そうでなければ死ぬ時まで、ともに留まるということです。そのようにした後に、二羽の雁は空に舞い上がって、他の雁の隊列に合流したり、自分たちの隊列に追いつくということです。

このように、互いに助ける技術と、その独特の飛行技術がなかったならば、雁の群れは毎日数百キロメートルを飛びながら、毎年数千キロメートルを移動するその飛行に成功できないでしょう。

私たちの周辺にも、こういう美しくて温かい勝利をとともに分かち合う人々の姿があるので、世の中は美しく見えたりもします。ところで、私たちが生きるこの地には、そんなに美しい人間だけがいるのではないので、今日も世の中は騒々しくて苦しいだけです。聖書は4種類の人間が存在していることを語っています。

原人、罪人、義人、幸福な人です。

①原人は、最初の人間で、神様のかたちを持った最も価値ある人として、万物の創造の中で最も美しい地球の祝福を思いきり味わえる人でした。

神様と直接対面して、その御声を聞きながら生きることで、永遠を生きる人であったし、自然万物を治める美しい人でした。ところが、今、その人はどこにもいません。

②罪人は、最初の人間であるアダムが罪を犯して、神様を離れた以後のすべての人のことを言います。知恵がある者が言うのには、アダムは罪のために罪人になって、その次の世代は罪人なので罪を犯すということです。

③義人は、自分が解決できない問題を発見して、イエス・キリストが解決者であることを信じて救われた人と言います。霊的問題の苦しみと偶像問題のむなしさと精神問題の悩みと肉体問題の重苦しさで生活の問題である地獄と次世代の問題、運命と運勢の問題から自由を得た人です。

④幸せな人は、イエス・キリストを通じた救いの価値と自由を持って、他の人を生かしながら、雁の群れのように全体を生かす人と言います。

この地に義人と幸せな人が多くなるほど、ひとりの人生が一生の間、歩いていかなければならない数千キロメートルの旅は、勝利と幸せでぎっしり埋まるようになります。

どのようにすれば、このような美しい勝利と幸せの主人公になることができるのでしょうか。

永遠を飛ぶようにする力

人間が解決できない人生の問題に対する解答を知らせるのが聖書です。

人間は、今でも人生の問題を解決するために善行と宗教と知識を総動員して、多くの努力を傾けています。しかし、なぜ人間の苦しみは解決されないのでしょうか。

もしかして、今、あなたにも来ているかもしれない精神的苦痛と続く失敗、そして予期できない病気をどのように解釈しなければならないのでしょうか。宗教生活をがんばるのに、なぜ困難がどんどん来るのでしょうか。偶像崇拜や占い、お祓いをがんばってするのに、なぜ災いが絶えないのでしょうか。教会に熱心に通っているのに、なぜ問題が解決されないのでしょうか。地球上に知識と宗教、善行がないから問題がきたのではなく、霊的問題のためなのです。

それでは、霊的問題とは何でしょうか。

本来の人間は神様のかたちに創造されたので、神様と交わって生きていました。しかし、サタン（悪魔）の誘惑を受けて、神様のみことばに不順従になって善悪の知識の木の実を取って食べたために、神様を離れる罪を犯すようになりました。これが原罪です。そのときから人間はサタンの手に捕われるようになって、やむを得ず罪の中で生きようになりました。それゆえ、絶えず迫ってくる呪いと災いを解決する方法がないのです。結局、罪のために永遠な刑罰（地獄）に達するようになりました。神様は、この問題を解決するために、はじめから人間に福音（キリスト）をくださいました。なぜなら、サタンの手の中にいる人間は、いくら優しくして真実でも、功德を積んで宗教生活をがんばっても、この問題を解決できないからです。

人間の根本問題である「罪と呪いとサタンの問題」を解決するために、人となってこの地に来られたキリストがイエス様だと聖書は語っています。

その方は、自ら私たちのすべての罪と呪いを担って十字架で死なれました。そして、死の権威をうち破って、3日後に復活されました。このように、不幸の根本の原因を取り除いて、サタン（悪魔）のしわざを打ちこわされました。神様が備えられた救いの祝福は、ただ信仰によってだけ受けられます。

だれでもイエス様がキリストであることを信じて受け入れる人は、神様の子どもになることができます。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒 16:31）と約束されました。私の人生、運命のパラダイムを変える勝利の開始、それがまさに「信仰」です。

信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。

神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には

報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。（ヘブル 11:6）

罪の報酬

そして神様の賜物

人々は不幸な目にあえば、罪のせいだと話します。はたして、罪とは何でしょうか。聖書は人間の罪を3種類で話しています。1つ目は原罪です。原罪とは、私たちが犯した罪ではなく、アダムとエバが罪を犯した以後から伝わってくる罪のことを言います。神様を離れた罪で、永遠に呪われるしかはない罪で、私も知らない間にサタンに捕われて、その影響を受けるしかない怖い罪です。それで、原罪に陥った人間は、サタンの働きで呪いを受けるようになって、偶像崇拜、先祖崇拜、お守り、お祓い、占い、迷信、雑神、宗教などに陥って、苦難を受けて子孫三代、四代まで呪いの遺産を伝える霊的な相続を残すようになります。二つ目は、自分が犯す罪です。原罪の結果で人間に訪ねてきた罪性と罪の欲求によって犯すようになる生活の中の罪です。三つ目は、先祖の罪です。家系に伝えられてきた偶像崇拜によって子孫に災いを及ぼすしかない罪を言います。その結果、相続ということばがあるほど、家系に流れるおかしな呪いと災いが伝わってくるようになったのです。

それなら、本当に人間の不幸の根である罪を解決することはできないのでしょうか。「**しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。**」(ローマ 5:8)人間が神様を離れた罪を解決するために、神様に会う道を開いてくださいました(ヨハネ 14:6)人間に押しよせる不幸と呪いの問題を解決して下さるために、十字架で私たちの罪の代わりに死んでくださいました(マルコ 10:45)。そして、復活されることによって罪の根本の根であるサタンの権威を打ちこわして解放される道を開いてくださいました(ヨハネ 3:8)その道がイエス・キリストです。「**キリスト**」ということばは、原罪を完全に解決されたということです。すべての罪と罪過、みなさんが自分で犯す罪までも解決されたということです。そして、過去、今日、未来永遠に問題解決されたということです。

それで、原罪が解決されれば、すべての災いは解決されたのです。原罪を解決したということは、すべてのことを回復したのです。キリストがすべてを回復させてしまいました。それでは、私たちが自分で犯す罪はどのようにすればよいのでしょうか。サタンが神様の子どもを滅ぼすことはできなくて、原罪に陥るようにはさせませんが、人間が犯す自分の罪によって苦しみの中を生きていくように絶えずだまします。それで、悔い改めなさいと言われるのです。私たちが自分で犯す罪を悟って悔い改める時ごとに、神様は赦して、みこころを変えてくださいます(1ヨハネ 1:9)。そして、福音を告白すればすべての暗やみの勢力は打ち砕かれるようになります。私たちが福音にあってずっと祈るようになったら、私たちの悪い習慣までも聖霊の力でいやされて回復するでしょう。神様は信仰を持った神様の子どもを奪われることも、あきらめることもなく、最後まで責任を負ってくださいます。それが神様の愛で、賜物です。

「**罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**」(ローマ 6:23)

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入れて来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの

毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

音階の中に隠された 救いの歌



世の中で聞こえる音の70%は音楽だ。全世界のどの国、どの民族も音楽を作って楽しむことができる。音楽には国ごとの歴史が入っていて、喜びと悲しみが隠されている。国ごとの固有の音階は特性ある音楽を表現するが、西洋の7音階が代表的だ。

今は電子音楽が発展して、より一層、多様な音を表現できるが、基本の音は7音階だ。本来、音楽は神様をほめたたえるために与えられたのだ。ところで、神様の座を見下げた天使が墮落して、空中に追い出され、音楽も持っていったので、今、現れる音楽の大部分がほめたたえることがない苦痛の表現だ。しかし、時代ごとに自分の救いを希望した人々が本来の音楽を回復しようとする信仰的努力を継続した。それで見つけ出したのが音の構成だった。5線譜は中世最高の音楽家グイード・ダレッツォ（Guido d'Arezzo）が1050年頃に発明したことで、今日、広く使われる7音階の名前は信仰の人ベネディクト修道士パウロが〈聖ヨハネの祈禱文〉を書くのを、はじめの字を取ってグイードが7音階を上がる順で使用してみて簡単に音楽を表現して記録するようにした。「主のしもべたちが/自由な声で/驚きを表わすよ/あなたの偉業を/汚れを洗ってください/私たちの汚れがついた口を/おお、聖なるヨハネよ」のラテン語の最初の文字を取って「ドレミファソラシ」とつけた。修道士の信仰告白の最初の文字をとって音楽家はそれを賢く音階で表現したのだ。ここでその7音階を降りる順で整理した「ドシラソファミレ」はその単語を翻訳すれば「宇宙の構造」に連結する構造であることを発見した。

結局、7音階は大宇宙の中に隠された面、すなわち音楽の数学的調和によって支配される宇宙の模型

を現わすためであると知ることができるのだ。

- ド/ D^Ominus ---主--- 絶対者
- シ/ S^Ider ---星--- すべての銀河
- ラ/ L^Actea ---乳--- 天の川
- ソ/ S^OLa ---太陽--- 太陽
- ファ/ F^Ata ---運命--- 惑星
- ミ/ Mⁱcro cosmos ---小宇宙--- 地球
- レ/ R^Egina Coeli ---空の女王--- 月

耳に聞こえる美しい音なので、口ずさむ音楽だが、その7音階は主である神様をほめたたえる原形をそろえているのだ。音の開始がドであるが、それは主、すなわち神様を呼ぶのだ。人間が喜んで歌う歌の主人が神様である。空中の権威を握っているサタンが音楽で人生を支配して、結局は苦痛を与えるが、万人が音階に乗っているかぎり、救いに向かった希望の歌になるのだ。神様はキリストを通すだけで主になれる。どんな方法でも自由を得ることができないが、音階を歌うとき、歌うその主を自分の心に迎える時だけが、宇宙の絶対者を味わうまことの自由を得るようになって、音楽を喜びで楽しめるようになる。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

* 相談したい方はこちらまでどうぞ